

大堀相馬焼における陶胎漆器の開発

研究期間：令和5年度

担当者：会津若松技術支援センター 産業工芸科 吾子 可苗、原 朋弥、佐藤 佑香

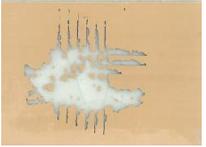
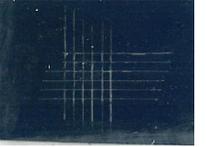
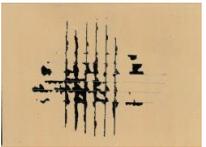
	黒呂色	白	本朱	青
陶土/ 青磁釉				
陶土/ 黒釉				
磁土/ 青磁釉				

図1 塗膜の付着性の評価（クロスカット法）



図2 重ね塗り

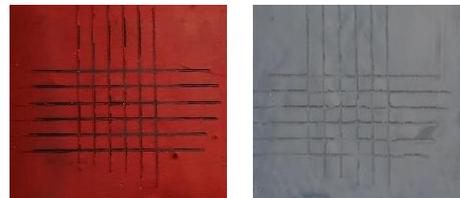


図3 浸水試験



図4 商品展開

解決すべき課題

大堀相馬焼は、福島県を代表する伝統的工芸品で、青ひび、左馬の絵付け、二重焼など多彩な技術を用いた陶磁器の製造を行っています。新たな試みとして、釉薬の上に漆を塗布した陶胎漆器の開発を目指していますが、漆塗膜の付着性が低いことが課題でした。そこで、釉薬の上に漆が密着する塗布条件を検証し、新商品の開発に繋げることを目的としました。

研究内容

陶土 1 種類に対し釉薬 2 種類、磁土 1 種類に対し釉薬 1 種類の合計 3 種類の試験板

を使用しました。漆を塗布後、硬化条件、焼き付け、顔料の有無による漆の付着性を、クロスカット法にて評価しました。

結果・まとめ

ガラス用漆の中でも、本朱や青といった顔料が混合されている漆を使用し、180℃で30分の焼付条件で、付着性が良好であることが確認できました（図1の赤枠）。付着性が低い漆でも、上記の漆を下塗りした上に重ね塗りすることで、付着性が向上することが分かりました（図2）。また、浸水試験の結果も良好でした（図3）。本研究の結果を用いて新商品の開発が進められています（図4）。

詳細な試験研究報告書はこちら！

ハイテクプラザ 試験研究報告書

検索

・「大堀相馬焼における陶胎漆器の開発」

お問い合わせ窓口 TEL : 024-959-1741 (代表 : 産学連携科)